※令和３年度以前入学生用

学校番号	１２０５

令和５年度　国語科

教科	国語科	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「国語表現」（教育出版）						
副教材等	国語表現ナビ（浜島書店）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・スマートフォン全盛の世の中、自分で文章を考察し「書く」という作業をする機会が著しく減少している。単語ではなく、文章で、自分の気持ちを伝えることの大切さを知るきっかけを是非与えたい。
・教科書と副教材を並行して使用していきます。単なる聴講に終わることなく、聞き書き、スピーチ、手紙文等々能動的活動を多く授業に取り入れる予定です。積極的に参加してはじめて、表現の楽しさや奥深さを習得することとなるでしょう。
・副教材の活用で基礎的な決まりごとの確認を行います。

２　学習の到達目標

・書く際の基本的な決まりごとを習得し、日常生活における常識的な文章を書けるようにする。
・敬語力を身につけ、同世代にとどまることなく、あらゆる世代とも相手の話を傾聴し適切なコミュニケーション力を身につける。
・思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d：知識・理解
観点の趣旨	多様な表現のあり方を知り､表現する力を進んで高める。課題に対し、自ら工夫し､伝えたいという気持ちをまず醸成する。	場面に応じて、適切な言葉・態度で、何をどう伝えればよいかが判断できる。相手の言うことを的確に聞き、話し合ったりして、自分の考えを深める。」	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し、語彙を増やし、知識を身につけている。
評価方法	作文 問題集 ノート 課題提出 発表 観察等	問題集 グループ活動 発表 観察等	作文 問題集 ノート 定期考査 観察等	作文 問題集 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	言葉に変える	「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。 絵や地図をことばに変える作業をとおして、ことばによる表現の可能性と限界を理解し、工夫の必要性を知る。		○	○		b こちらの指示する言葉を正確に聞き取ることができる。 c わかりやすい言葉で、正確に表現することができる。	ノート 課題提出 ノート 課題提出ト
	声の表現	呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。 スピーチのための事前の準備について理解し、本番の体験をとおして、その方法を学ぶ。 他者の興味・関心をひく文献の紹介と朗読の工夫について習熟する。	○	○			a 大きな発声する。 自ら進んで発表しようとする。 b 聞き手を意識し、文の構造に留意した音読・朗読ができる。 聞き手の興味や関心をひくために、スピーチや紹介ができる。	発表 観察等 グループ活動 発表 観察等
	人とつながる言葉	挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証してみる。 敬語が人間関係の調整や場の状況にどのようにはたらいているか考え、自己表現としての敬語の使用方法を理解する。				○	d ことばが人間関係を構築していく力について理解している。	問題集 定期考査 作文 観察等
	面接―社会との接点	実際の面接の場面を想定し、伝わる話し方について理解して、面接における心構えと技術を習得する。	○				a 自己分析によって、自分を正しく理解し、意見やアピールを作成できる。 場面と相手を想定して、意欲的に取り組んでいる。	発表 グループ活動 観察等

※令和３年度以前入学生用

後期	小論文	小論文は根拠に支えられた意見を述べるものであることを理解し、具体的なトレーニングを通して意見と根拠を短文で書く。 与えられた論題から適切な問いを見つける方法を学ぶ。			○		ｃ文章の「型」を理解し、表現に生かすことができる。 与えられたテーマに基づいて、小論文を書くことができる。	ノート 課題提出 観察等 問題集 課題提出
	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの流れについて理解し、説得力のある話し方の技術について学習する。 自分広告を作り、テーマと内容について工夫したり、プレゼンテーションの実際例をもとに、全体の構成の方法や効果的な話し方の技術を習得したりする。		○			ｂ音声表現･非音声表現などを総動員したコミュニケーションであるプレゼンテーションにおける表現の技術について理解を深めている。 効果的な話し方、情報の視覚化などに留意したプレゼンテーションを行うことができる。	発表 グループ活動 観察等
	話し合いの方法	話し合いの目的に応じてなされている工夫を理解し、アイデアの出し方や原案の作り方を習得する。実際の流れにそって、ディベートにおけることばの用い方や発言の技術を学び、ディベートを実践する		○			ｂ 目的に合わせた会議の方法や工夫について理解している。 ディベートの基本的な流れについて理解し、実際に取り組んでいる。	発表 グループ活動 課題提出
	副教材「国語表現ナビ」	よい文章を書くための基本的な決まりごとを習得する。 表記や表現について、テーマを定めて段階ごとに理解し、書く楽しさを身につけていく。				○	ｄ テーマごとの約束事を、演習を中心とした展開の中で理解を深める。求められた用法を理解し、自分で活用することができる。	問題集 定期考査 観察等

※　表中の観点について

a:関心・意欲・態度　　b:話す・聞く能力　　c:書く能力　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。